

# 入込客 (755万人) 宿泊客とも伸びる

## 昭和53年観光統計

### 外来車の入込が断然トップ

市観光課では、毎年、日光への観光客の入込と宿泊状況を統計にまとめていますが、このほど昭和五十三年の観光統計がまとまりました。

それによりますと、日光にきた観光客の総数は七百五十五万人で、五十二年の七百四十五万二千九百九十九人増えています。これを率で比較しますと一・三%の増となり、入込観光客が横ばいから増加の傾向になりました。この主な原因は、外来車による入込客が前年比で二十二万五千人増えたこと、特に観光バスによる入込客の増加があげられます。

日光への観光客の入込経路は、大きく分けて四種類あります。鉄道が国鉄と東武、自動車は定期バス(東武・関東)と外来車(観光バス・マイカー)です。

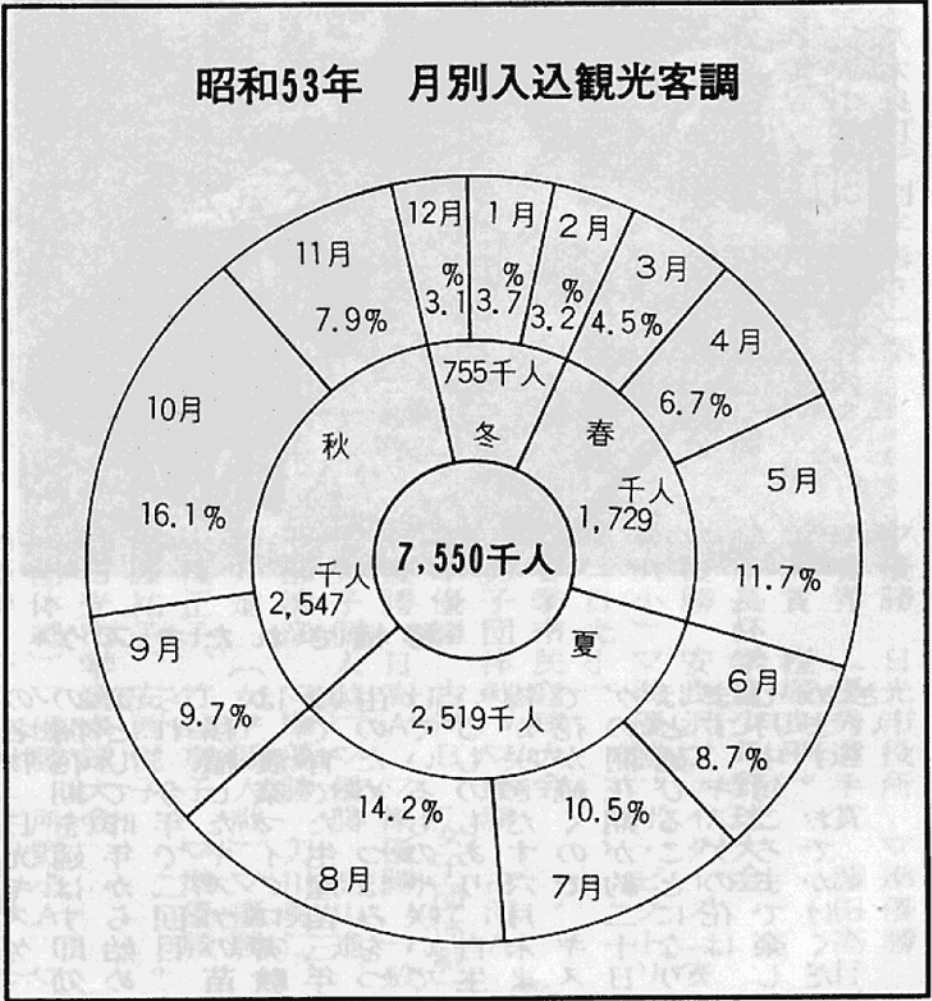
四種類の比率をみますと、外来車が断然多く五百五十五万三千人で七三・五%を占めています。次いで東武が九十一万九千人で一

二・二%、国鉄が五十八万二千二百人で七・七%、定期バスが四十九万六千人で六・六%になります。順位はここ四年間同じですが、観光客の外来車への依存度がますます高くなっていくのがわかります。

### 秋・夏の 入込が 伯仲

入込観光客を月別で比較しますと、トップは十月の一六・一%、二番目が八月の一四・二%、次いで五月の一・七%、七月が一・〇%、九月が九・七%、六番目が六月の八・七%です。これを四季別にまとめますと、秋が三三・七%、夏が三三・四%、春が二二・九%、冬が一〇・〇%で、順位は前年と同じですが、トップの秋と夏の差がほとんどなくなっています。

昭和53年 月別入込観光客調



### 宿泊率は一八・二%

宿泊客数は百三十七万三千三百六十六人で、宿泊率にしますと一八・二%です。前年と比較しますと、〇・九五%の一万二千八百九十五人増えています。五十二年に引き続き増えたことは、昨年の夏が特に暑く、涼を求めて観光客が宿泊したものと思われれます。

宿泊客を地域別に見ますと、湯元が五十二万二千六百三十三人で三六・六%、日光と霧降が四十二万七千六百九十九人で三一・一%、中宮祠が二十六万二千四百四十三人で一九・一%、菖蒲と丸山が十二万六千七百三十二人で九・二%、光徳と戦場ヶ原が五万四千三百二十九人で四%です。菖蒲・丸山・中宮祠地区が増えています。

### 施設別は旅館が一位

百三十七万三千三百六十六人の宿泊客を施設別で比較しますと、旅館が一番で七三・五%、次いで保養所が九・八%、ホテルが四・四%、

民宿が三・六%、国民宿舎が一・九%、林間学校が六・一%、ユースホステルが〇・七%の順です。